

島津 原子吸光分光光度計

AA-6300

簡易マニュアル

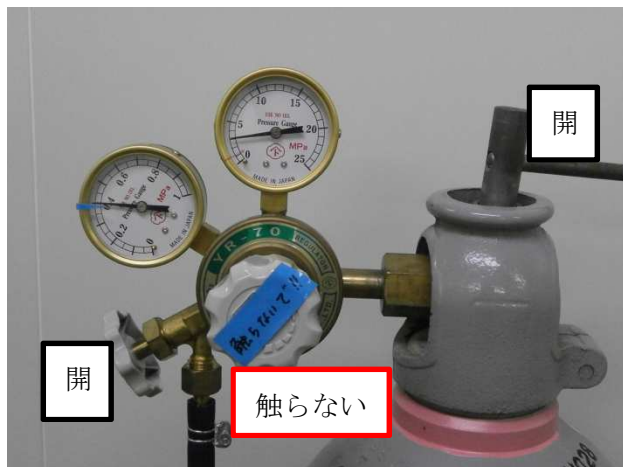
2012. 05. 28

太田弘道

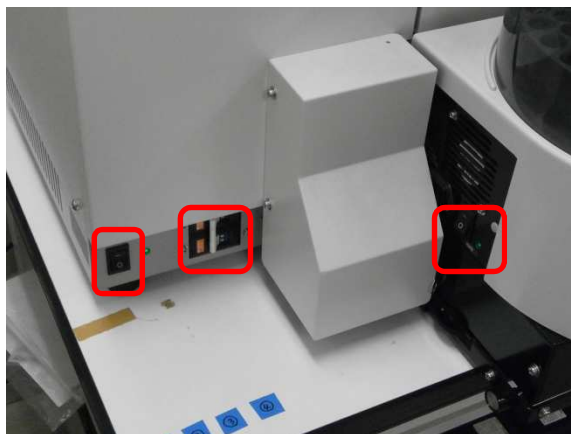
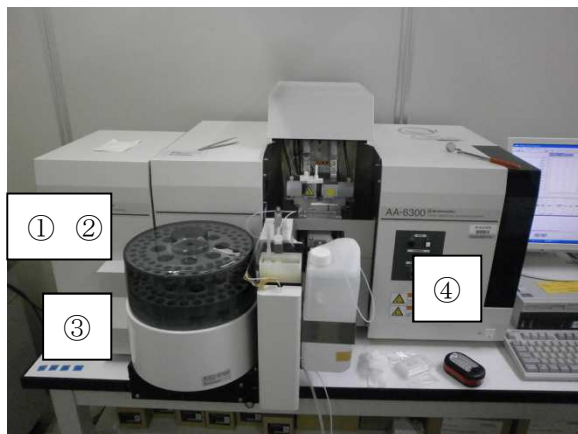
1. 装置の立ち上げ

Ar ガスの残量が1MPa 以上あることを確認して、1 次、3 次バルブを開ける。2 次バルブは触らないこと。

水道水を流す。流量が不足している場合は、装置側で判断して警告が出るので、その時に流量を上げる。



装置の電源を入れる 全部で4 か所 (①～④)



パソコンの電源を入れる

2. 測定制御ソフトの起動

デスクトップのアイコン「AizAArd」をダブルクリック

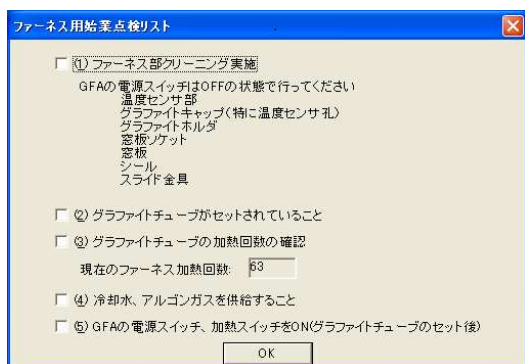


開いた画面の装置の部分をクリック



点検リストが表示される。(3)のグラファイトチューブの加熱回数が、使用ノートの前回使用者の数字と一致しているかを確認する。

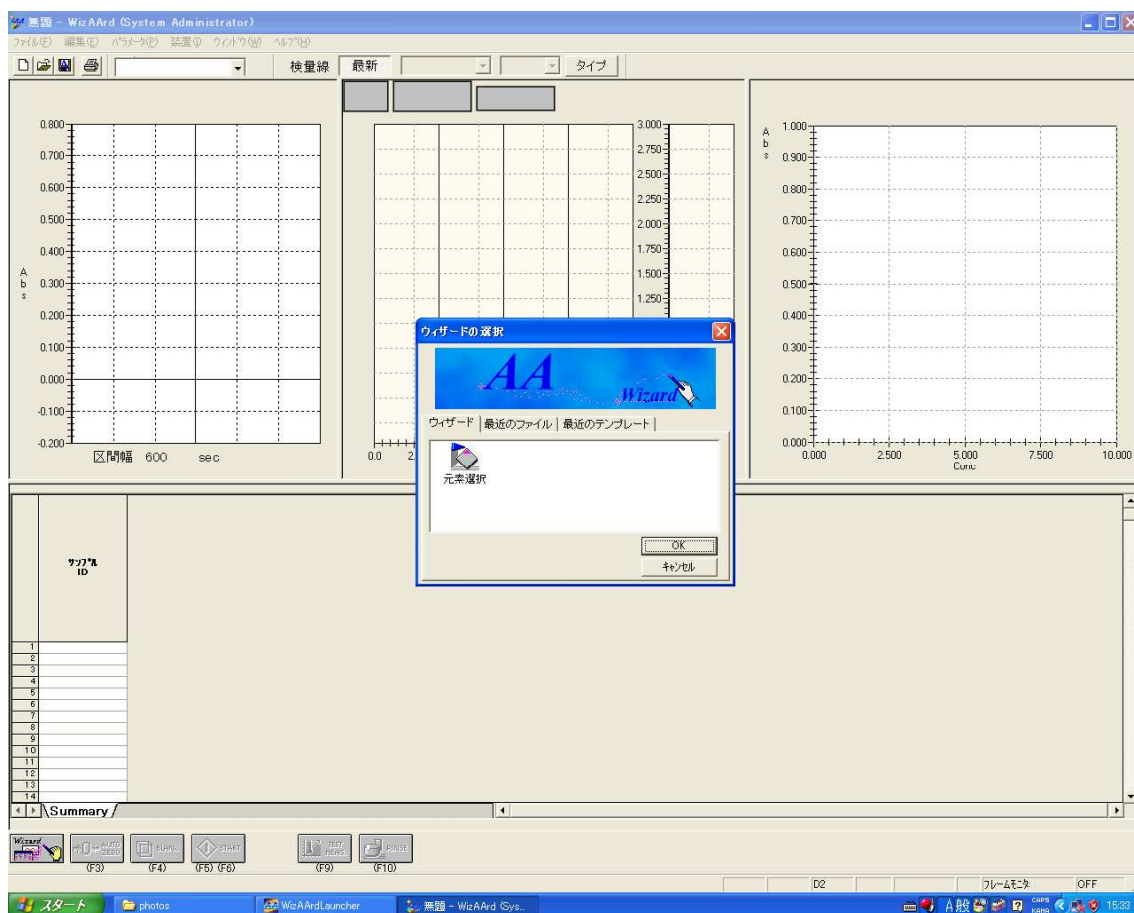
※注意※ 回数が 1000 回を超えているときは交換が必要。ただし、1000 回を超えた状態で使用しても装置に負担がかかることはないので、急ぎの測定の場合はそのまま使用してもよい。測定を中断した場合も、続行する場合も必ず監守者に報告すること。



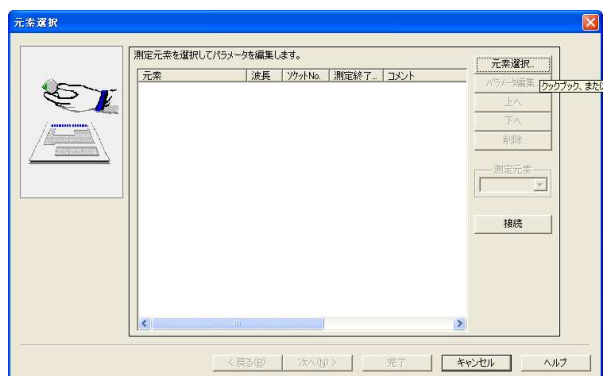
「OK」をクリック



ログイン画面が表示されるので、ログイン ID に「admin」、パスワードは空欄のまま「OK」をクリック。



起動直後の画面。新しく測定を開始するために「ウィザード」タブから「元素選択」を選び、「OK」をクリック。
 （「最近のファイル」、「最近のテンプレート」を選択することで、以前の測定条件を呼び出すこともできる）

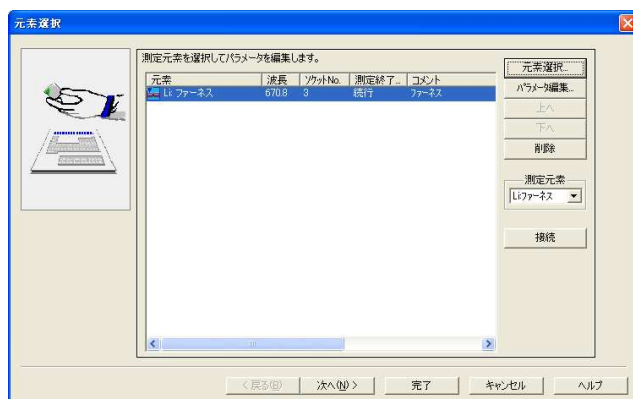


「元素選択」をクリック。

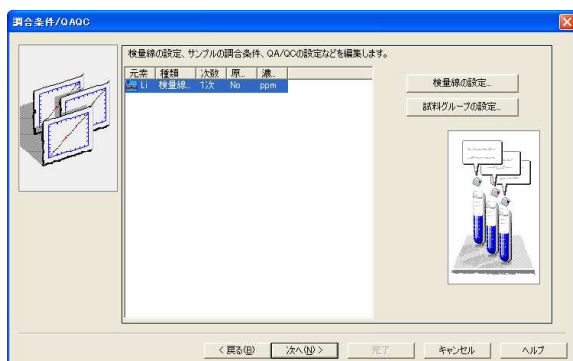


図の 4 か所をチェック。「OK」をクリック。

※注意 ランプの交換を自分でできない（許可されていない）場合は、マシンタイムの予約を行う際に、使用予定日時と使用ランプを監守者に連絡してください。



指定した元素が登録されたのを確認して、「次へ」をクリック。



「検量線の設定」をクリック。

検量線の設定

☐ 標準添加法
 次数: 1次 濃度単位: ppm
☐ 原点通過
 QCブランク/QCスタンダード設定...

調合条件の共通設定
☐ ミキシングON ミキシング設定...
☐ 繰返測定回数... コーティング・炉内濃縮...
 試薬の設定...

OK 更新 キャンセル 読出... 保存...

フラグ調合条件

	自動	頻度	位置	試料量 (uL)	希釈液 R1	第一試薬 R2	第二試薬 R3	第三試薬 R4	合計量
	☐	20	1	10	0	0	0	0	10

リフロー調合条件

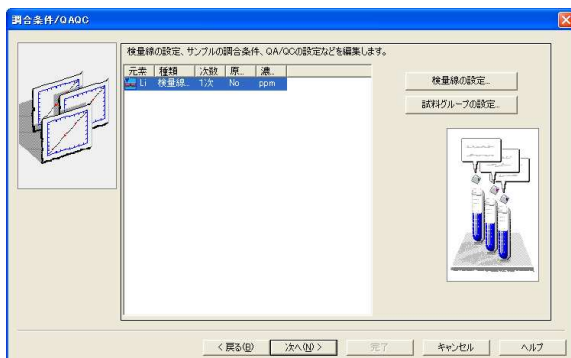
	自動	頻度	濃度	位置	試料量 (uL)	希釈液 R1	第一試薬 R2	第二試薬 R3	第三試薬 R4	合計量
	☐	20	0.0000	1	10	0	0	0	0	10

検量線測定シークス

行数: 3 更新 行挿入 行削除 未知試料濃度上限 ☐ 0.0000

	動作	サンプルID	設定濃度	位置	試料量 (uL)	希釈液 R1	第一試薬 R2	第二試薬 R3
	STD		0.4000	1	10	0	0	0
	STD		1.2000	1	10	0	0	0
	STD		2.0000	1	10	0	0	0

必要な情報を入力する。主に入力が必要なのは図の二か所。行数（検量線用試料の数）、設定濃度、位置（オートサンプラー）の指定は必須。（赤枠）繰返測定回数を変更した時もこの画面から。（青枠） 入力が終わったら「OK」をクリック。



「試料グループの設定」をクリック。

試料グループ設定

試料グループ番号:

重量補正係数

採取量(WF):

メスアップ量(VF):

希釈率(DF):

その他係数(CF):

実濃度単位:

未知試料/スパイク調合条件

種類	添加濃度	試料量	希釈液 R1	第一試液 R2	第二試液 R3	第三試液 R4
未知試料		10	0	0	0	0
スパイク	0.0000	10	0	0	0	0

未知試料/スパイク測定シーケンス

	動作	サンプルID	位置	採取量	MRT挿入
1	UNK		4	1.000000	☒

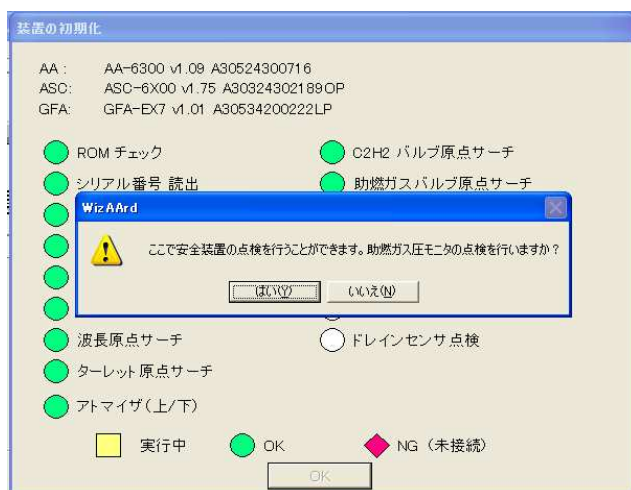
試料数

試料情報を入力する。必ず必要なのは試料数とオートサンプラー上の試料の位置。入力が終わったら「OK」をクリック。

元の画面に戻り、「完了」をクリック。



「接続/パラメータ送信」をクリック。装置との通信確認が実行される。水道水、Ar ガスが不足している場合は警告が出るので、指示に従う。(不安な場合は必ず監守者に連絡すること。)



フレーム法に関する確認項目が表示される。現在はファーンネス法で使用しているので、「いいえ」をクリック。



目視で廃液タンクの容量を確認する。問題なければ「OK」をクリック。



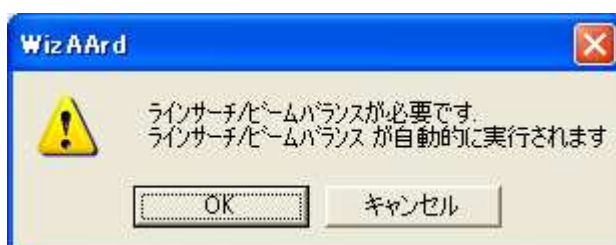
「いいえ」をクリック。



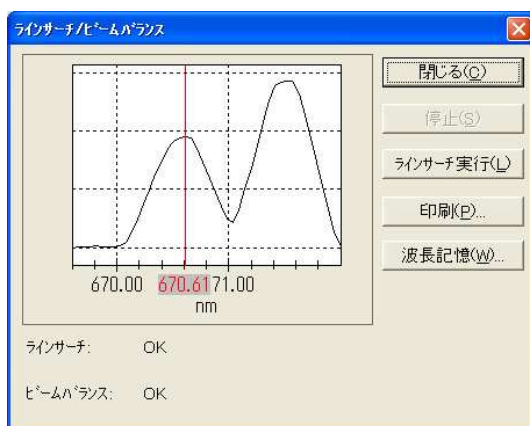
「次へ」をクリック。



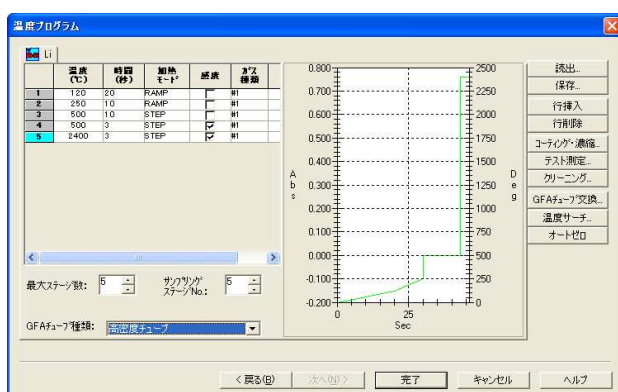
「次へ」をクリック。



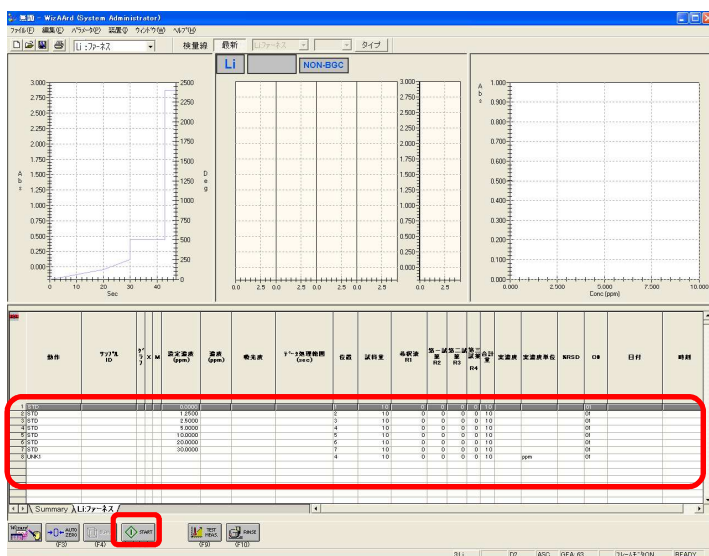
「OK」をクリック。



「閉じる」をクリック。



「完了」をクリック。

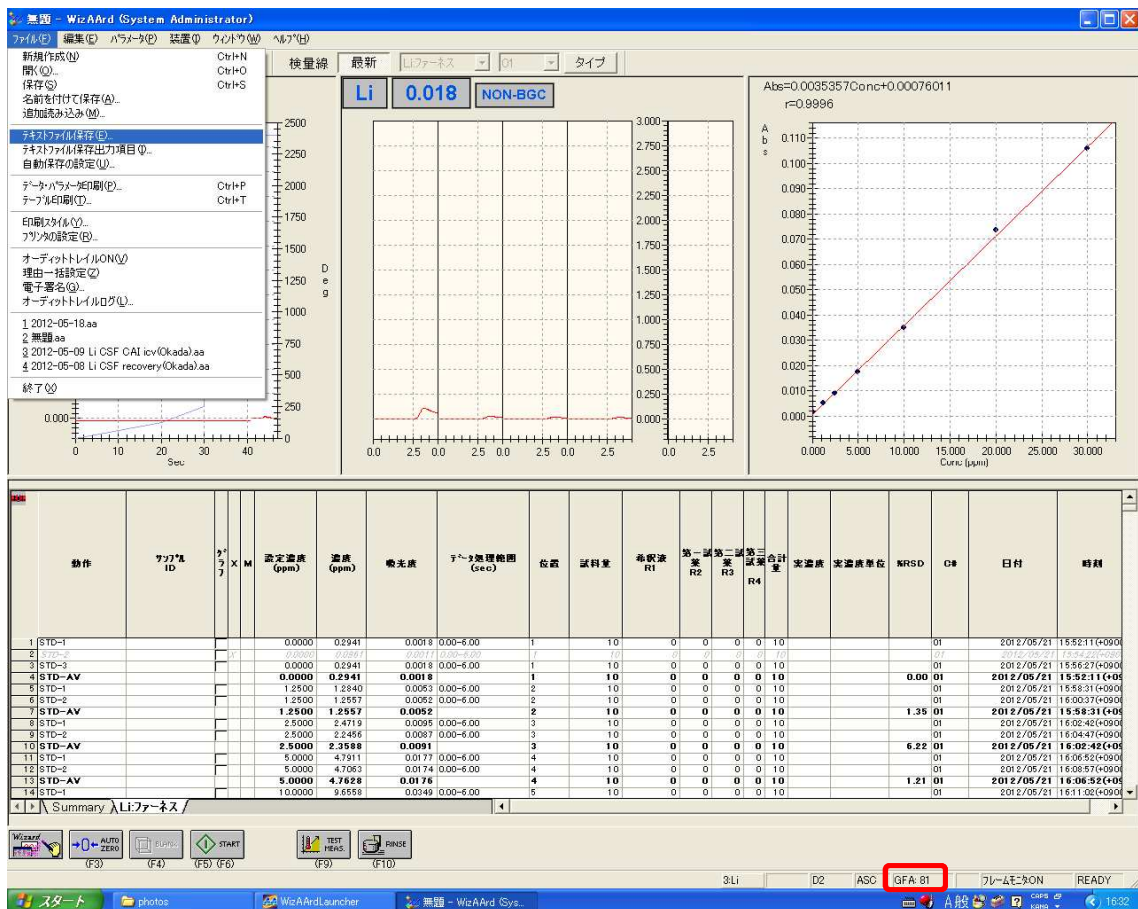


検量線、試料の測定条件が反映されている。訂正があれば、この画面から訂正できる。

「START」をクリックすると、自動的に最後まで測定を行う。



「OK」をクリック。



名前を付けて保存で、測定条件、測定結果を保存できる。テキストファイル（タブ区切り）で保存することも可能。**※重要 GC チューブの使用回数をメモしておく**

3. 装置の立下げ

ファイル>終了で測定ソフトを終了する。（必要ならデータをセーブする。）

パソコンを切る

装置の電源を切る。（4 か所）

水道水、Ar ガスを止める。

利用記録を記入する。